

取組と目標に対する自己評価シート（フェイスシート）

市町名	尾道市
所属名	高齢者福祉課（高齢者福祉係）

タイトル	高齢者の自立支援、介護予防、重度化予防の推進
区分(あてはまるものにチェックを)	<input checked="" type="checkbox"/> 自立支援、介護予防、重度化防止 <input type="checkbox"/> 介護給付費等適正化

現状と課題

本市は全国平均に比べ、高齢化率・介護認定率等が共に高い状況にある。人口減少の中、高齢化率は2040年頃まで上昇、高齢者のみの世帯も増え続ける見込みであり、高齢者の社会参加や活動の場づくり、健康寿命をいかに伸ばすかが重要な課題となっており、高齢となっても本人らしい暮らしを続けていくため、介護予防、自立支援の取り組みを進めていく必要がある。

第8期における具体的な取組

- ① ふれあいサロンの普及、推進
- ② シルバーリハビリ体操の普及拡大
- ③ 医療・介護等の多職種連携と重層的支援（地域共生）
- ④ 自立支援型ケアマネジメントの推進
- ⑤ 保険と介護の一体的実施

目標（事業内容、指標等）

- ① ふれあいサロンの普及  
高齢者の介護予防や交流の場として、住民主体となり地域の集会所等で開催。

	R2.9(現在)	R3年度	R4年度(R5.3)	R5年度
サロン数	171か所	(175か所)	(180か所)	185か所

※ 括弧内の数値は計画内に記載されていない数値

- ② シルバーリハビリ体操の普及  
ボランティアで地域の高齢者に体操を指導する「シルバーリハビリ体操指導士」の養成を通じて、体操の普及と介護予防、住民主体の地域づくりを進める。

	R2.9(現在)	R3年度	R4年度(R5.3)	R5年度
指導士数(1級・2級)	370人	(400人)	(430人)	460人
体操教室数(定期開催)	102か所	(105か所)	(110か所)	115か所
体操参加延人数	(R1年実績) 25,542人	(26,000人)	(27,500人)	29,000人

- ③-1 医療介護連携 尾道市地域包括ケア連絡協議会など  
医療介護の連携の更なる充実に向け、尾道市地域包括ケア連絡協議会と地域包括支援センター等が連携して、地域包括ケアの深化や多職種連携の取り組みを実施。

- ③-2 重層的支援（地域共生） 尾道市地域共生包括化推進会議（R3年1月～）など  
地域共生社会の実現に向けた包括的支援体制を構築するため、包括的相談支援、多機関協働、アウトリーチなどを通じた伴走支援に取り組む。尾道市は「重層的支援体制整備事業への移行

準備事業」(R3年度～)を実施。

④ 自立支援型ケアマネジメント・自立支援型地域ケア会議の充実

自立支援型地域ケア会議の開催。(R3年6月～ 隔月開催)

自立支援型ケアマネジメントについて、尾道市地域包括ケア連絡協議会やケアマネ協等、各種研修会で取組みを啓発。

	R2年度	R3年度	R4年度(R5.3)	R5年度予定
自立支援型地域ケア会議の開催	未実施	5回	6回	6回

⑤ 尾道市高齢者の保健事業と介護予防の一体的実施事業

地域の特性や健康課題、高齢者一人ひとりの状況を把握し、高齢者の保健と介護を一体的に取り組むことで、高齢者が地域で健康的な生活を送ることを目的に実施。(R3年度～)

## 目標の評価方法

### ●評価の方法

- ① サロンの数で把握
- ② シルバーリハビリ体操指導士からの実施報告書等で把握
- ③-1 実施報告書等で把握
- ③-2 会議開催や実施記録等で把握
- ④ 自立支援型地域ケア会議の開催回数  
尾道市介護支援専門員連絡協議会の研修報告書で把握
- ⑤ 会議に参加し協働実施。

## 取組と目標に対する自己評価シート(自己評価結果)

### (実績評価)

実施内容						
① ふれあいサロンの普及、推進						
	R3.3	R4.3	R5.3	R5.3 目標値	結果	達成度
サロン数	171 か所	169 か所	169	(180 か所)	○	93.8%
② シルバーリハビリ体操の普及拡大						
	R3.3	R4.3	R5.3	R5.3 目標値	結果	達成度
指導士数(1級・2級)	400 人	400 人	415 人	(430 人)	○	96.5%
体操教室数(定期開催)	106 か所	107 か所	111 か所	(110 個所)	◎	100%
体操参加延人数	15,524 人	11,065 人	20,813 人	(27,500 人)	△	75.6%
③-1 医療介護連携 尾道市地域包括ケア連絡協議会など						
R4 年度は、研修・部会等をオンラインで開催。医療介護連携部会ではお薬手帳情報共有シートの改定の検討、地域包括ケア推進部会では地域課題の把握を実施。オンライン研修は、R4 年度で 3 回実施。						
③-2 重層的支援(地域共生) 尾道市地域共生包括化推進会議など						
<ul style="list-style-type: none"> <li>・地域共生 課題解決部会(ひきこもり部会)の設置。</li> <li>・ひきこもり支援ステーションみらサポ(R4 年 6 月)の設置。</li> </ul>						
④ 自立支援型ケアマネジメントの推進						
<ul style="list-style-type: none"> <li>・2 ヶ月に 1 回(概ね 2 事例)開催。</li> <li>・尾道市介護支援専門員連絡協議会の研修会にて周知啓発をおこない、尾道市地域包括ケア連絡協議会の各部会で実施状況と地域課題について報告を行った。</li> </ul>						
	R3 年度	R4 年度(R5.3)	R5.3 目標値	結果	達成度	
自立支援型地域ケア会議の開催	5 回	6 回	(6 回)	○	100%	
⑤ 尾道市高齢者の保健事業と介護予防の一体的実施事業						
R3 年度から実施。ハイリスクアプローチ(高齢者に対する個別的支援)として「健康状態不明者」「重複・多剤投薬者への相談・指導」等を、ポピュレーションアプローチ(集団指導)として通いの場における「おのみちフレイル予防チャレンジ」を実施。						
自己評価結果 【○】←(◎, ○, △, ×のいずれか※を記載してください。)						
① ふれあいサロンの普及、推進						
R2 年度から、新型コロナウイルス感染症の拡大防止のため、全市的に開催を自粛した期間がある。自粛解除後も再開に至らない地域や参加人数が落ち込んだ状況がある。一方、お互いが気に掛け合い、電話連絡をする等、助け合う関係づくりが芽生えていることも確認できた。高齢者の通いの場や参加者が他市町と比較し相対的に少ない状況にある。						
サロン開催状況	H30.3	H31.3	R2.3	R3.3	R4.3	R5.3
開催回数	4,253 回	4,032 回	4,081 回	2,464 回	1,936 回	3,148 回
延参加人数	71,530 人	70,060 人	66,672 人	34,715 人	25,097 人	45,077 人
参加者数/1 回	16.8 人	17.4 人	16.3 人	14.0 人	12.9 人	14.3 人
② シルバーリハビリ体操の普及拡大						
R2 年度から、新型コロナウイルス感染症の拡大防止のため、全市的に開催を自粛した期間がある。市ホームページやケーブルテレビでの動画・放送で対応した。徐々に再開し、体操教室の数は概ね計画どおりだが、教室開催頻度の多くは月 1~2 回にとどまっている。R4 年度はモデル的にリハビリ専門職に教室に関わっていただき、より効果的な取り組みとなるよう支援体制整						

備を進めた。

③-1 医療介護連携 尾道市地域包括ケア連絡協議会など

R2 年度から、新型コロナウイルス感染症の拡大防止のため開催が難しかったが、R3 年度よりオンラインにより部会の活動や研修会を再開した。

③-2 重層的支援(地域共生) 尾道市地域共生包括化推進会議など

推進会議、実務者会議、課題解決会議(専門部会)を開催。具体的なケース検討の場である個別ケース会議においては、「困窮」「8050 問題」「ひきこもり」「ヤングケアラー」など、複雑複合化した課題について、分野を超えた支援者ネットワークでの対応が形づくられた。

④ 自立支援型ケアマネジメントの推進

・2 ヶ月に 1 回(概ね 2 事例)開催。(R3 年度;5 回、R4 年度;6 回)

・尾道市介護支援専門員連絡協議会の研修会にて実施報告・啓発を実施。尾道市地域包括ケア連絡協議会の各部会で実施報告を行い、意見を伺った。

・市のホームページ内に、自立支援型ケアマネジメントの検討事例(第 1~9 回、全 16 事例)の傾向と課題を掲載。

⑤ 尾道市高齢者の保健事業と介護予防の一体的実施事業

ハイリスクアプローチ(高齢者に対する個別的支援)として「健康状態不明者」「重複・多剤投薬者への相談・指導」を、ポピュレーションアプローチ(集団指導)として通いの場における「おのみちフレイル予防チャレンジ」を実施した。

## 課題と対応策

① ふれあいサロンの普及、推進

気軽に立ち寄れる地域に根差した小地域単位のサロンの立ち上げの支援が必要であり、特にフレイル予防効果があるとされる週 1 開催で運動できる集いの場づくりを推進する。

サロン支援員による、コロナ禍でも可能なサロン活動の内容・プログラムの提案などを実施し、地域包括支援センターや生活支援体制整備事業(生活支援コーディネーター等)との協力で地域における他の活動と連携を図る。

② シルバーリハビリ体操の普及拡大

体操教室の多くは月 1~2 回の開催頻度である。より効果的なフレイル予防とするため参加者への動機付けや、指導士のモチベーションの維持向上の取組、養成講習会の更なる周知が必要であり、リハビリ職等による通いの場の支援体制の整備を進める。また、短期集中型通所サービス終了後の社会参加の場として更に周知を図る。

③-1 医療介護連携 尾道市地域包括ケア連絡協議会など

引き続き、オンライン等により、多職種連携・医療介護連携の活動を継続する。

③-2 重層的支援(地域共生) 尾道市地域共生包括化推進会議など

・引き続き、多機関連携で、8050 世帯・ヤングケアラー等、多問題を抱えるケースにおいて、地域の実情や特色等を活かした伴走支援の取り組みを行う。

・地域包括支援センターを中心に開催する「地域ケア会議」「地域ケア推進会議」、生活支援体制整備事業における「協議体」と連携した課題解決や協議との更なる連携を図る。

④ 自立支援型ケアマネジメントの推進

自立支援型地域ケア会議を偶数月で開催。集合開催が望ましいが、コロナ禍のハイブリッド開催(集合+WEB)で、多くの専門職の傍聴参加ができた。引き続き、多職種が参加しやすい開催方法を検討し、R5 年度以降、事例提供者・司会者・助言者の拡大、開催回数やエリア別開催についても検討を進める。

⑤ 尾道市高齢者の保健事業と介護予防の一体的実施事業

R5 年度も、引き続き、実施地区を変えて実施する。

※「◎達成できた、○概ね達成できた、△達成はやや不十分、×全く達成できなかった」